

令和5年度 西部クリーンセンターの放射性物質濃度等の測定結果

■ 焼却灰等の放射性物質ごとの濃度（単位： Bq/kg ）

Bq（ベクレル）：放射能の量を表す単位（放射線が出ている量を表す）

第1回

採取日	検体	放射性セシウム134	放射性セシウム137	放射性セシウムの合計
令和5年5月2日	飛灰 ^{※1} ^{※4}	不検出	49	49
	焼却残渣 ^{※2}	不検出	不検出	不検出
	炉砂 ^{※3}	不検出	11	11

第2回

採取日	検体	放射性セシウム134	放射性セシウム137	放射性セシウムの合計
令和5年8月4日	飛灰 ^{※1} ^{※4}	不検出	60	60
	焼却残渣 ^{※2}	不検出	不検出	不検出
	炉砂 ^{※3}	不検出	12	12

第3回

採取日	検体	放射性セシウム134	放射性セシウム137	放射性セシウムの合計
令和5年11月6日	飛灰 ^{※1} ^{※4}	不検出	58	58
	焼却残渣 ^{※2}	不検出	不検出	不検出
	炉砂 ^{※3}	不検出	12	12

第4回

採取日	検体	放射性セシウム134	放射性セシウム137	放射性セシウムの合計
令和6年2月1日	飛灰 ^{※1} ^{※4}	不検出	26	26
	焼却残渣 ^{※2}	不検出	不検出	不検出
	炉砂 ^{※3}	不検出	12	12

※1 飛灰とは、ろ過集じん器などで捕集した排ガスに含まれているダスト（ばいじん）をいう。

※2 焼却残渣とは、燃やしたごみに含まれる未燃分（主に小石や金属類）をいう。

※3 炉砂とは、流動床式焼却炉においてごみを燃やすために用いる砂のことをいう。

※4 重金属の溶出を防ぐための薬剤処理を行っていない状態の検体を採取。

◆ 敷地境界における空間放射線量（単位： μ ^{マイクロシーベルト} S v /時）

S v（シーベルト）：人が受ける被ばく線量の単位（人が受ける放射線の量を表す）

μ （マイクロ）： 10^{-6} （100万分の1）

実施回	測定日	東側	西側	南側	北側	バック グラウンド
第1回目	令和5年4月5日	0.07	0.06	0.05	0.06	0.06
第2回目	令和5年5月10日	0.07	0.05	0.06	0.06	0.05
第3回目	令和5年6月14日	0.07	0.06	0.06	0.07	0.06
第4回目	令和5年7月12日	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
第5回目	令和5年8月9日	0.07	0.05	0.06	0.06	0.05
第6回目	令和5年9月13日	0.06	0.06	0.06	0.07	0.06
第7回目	令和5年10月11日	0.07	0.05	0.06	0.06	0.06
第8回目	令和5年11月8日	0.07	0.06	0.06	0.06	0.06
第9回目	令和5年12月13日	0.07	0.05	0.06	0.07	0.06
第10回目	令和6年1月10日	0.07	0.06	0.07	0.07	0.06
第11回目	令和6年2月14日	0.07	0.06	0.06	0.07	0.06
第12回目	令和6年3月13日	0.07	0.06	0.06	0.07	0.06

※ 1か月に1回の頻度で測定を実施。

※ 地表面から約1mの高さで測定を実施。